

中外日報 平成 23 年 6 月 7 日 (火) 掲載



大統領、仏歯寺管長らが出席した開館式

スリランカの仏歯寺に 仏教博物館オープン

日本の展示コーナーも

スリランカ最大の仏教聖地キャンディの仏歯寺

に、アジアの仏教を国別に展示する「国際佛教博物館」が設立され、5月20日にマヒンダ・ラージヤパクサ大統領を迎えて開館式が行われた。1・2階の展示フロアに16カ国がコーナーを設けており、日本は一般財団法人本願寺文化興隆財団(大谷暢順理事長)の総合監修により「大乘の至極日本佛教」のテーマで佛像・仏具やDVD、写真パネルなどを出展し日本

仏教の概要を紹介している。

博物館の建物は、英国統治時代の旧裁判所をスリランカ政府から貸与されたもので、仏歯寺はこれを世界の仏教の特色を一堂に展覧する仏教博物館として公開した。出展国は、スリランカをはじめインド、パキスタン、ネパール、タイ、中国、韓国、カンボジア、ミャンマー、マレーシア、インドネシア、ベトナムなど16カ国。

ランカと友好交流を重ねてきた旧・本願寺維持財団(今年2月に内閣府から一般財団法人本願寺文化興隆財団として認証)

が外務省からの要請で総合企画を引き受け、天台宗、真言宗、曹洞宗、日蓮宗などの教団や関係大学、研究機関の協力を得て具体化した。展示は第1部「日本佛教概要コーナー」、第2部「テーマ別展示」の2部で構成。DVDによる日本仏教の概説は、総論を財団の大谷理事長が紹

介し、「祈りと信仰」「修行・儀式」「芸術・文化」の各テーマごとに奈良康明駒沢大学元総長、頼富本宏種智院大学名誉教授、渡邊實陽立正大学名誉教授が解説する。

出展品目は、仏・菩薩・諸天像のほか、絵画、文書、法具、法衣、経典など約30点。年代の新しいものばかりだが、中に財団所蔵の蓮如三筆の番号(三筆期)、日蓮三筆の「立正安国論」や十界大曼荼羅本尊、両界曼荼羅図など国宝級を含む文化財の複製も展示されている。

(形山俊彦)